

## 『第 1 回維持管理の容易な河道の検討会』 学識者委員からのご意見

平成 29 年 1 月 19 日に開催した「第 1 回維持管理の容易な河道の検討会」では、学識者委員（6 名）の皆様から以下のご意見を頂きました。

項目	ご意見	資料 2 の 該当ページ
維持管理の 容易な河道 の計画	船底形断面の計画が成功すれば、自然環境にも水理的にもすごく良い事例になる。(張委員)	P33
	樹林化や河川特有の植生の観点からは船底形河道は望ましい方向に行く。(石川慎吾委員)	P73、P82
	遠賀川だけではなく物部川と同じセグメントの河川での船底形河道の事例も確認すること。(石川慎吾委員)	P34
河床変動 予測	下ノ村は上下流を堰に囲まれており、支川もなく、あまり土砂の供給は無いはずだが、本当にシミュレーション通り土砂が供給されるのか。(高橋委員)	P63
	河床変動解析は実際の計測結果等があれば、現実に近い土砂供給量で検討した方が良い。(張委員)	
	湾曲部であるので、船底形の断面を今後も維持できるか、もう少し検討が必要。(張委員)	P66～69
	砂州ができない場合には今と違う環境となるので、検討が必要。(張委員)	P66、P124
	シミュレーションの解析条件や解析結果は、今後、もう少しデータを細かくとりながら考えていく必要がある。(岡田委員)	
	土砂の予測モデルは、今後の効果的な河道の維持管理のためにも活用できれば良い。(岡田委員)	P124
魚類、底生 動物への 影響	扇状地河川の流路で単純化すると魚類や底生生物にはダメージを与える。(石川慎吾委員)	P83～85
	環境（魚類の生息状況）の中に漁業を含めて欲しい。良い漁場なので、慎重にやって欲しい。(高橋委員)	P14、P84
瀬替えに よる影響	瀬替えにより川が干上がり、底生生物や魚類等が壊滅的なダメージを受ける。段階的な施工でどの程度ダメージを軽減できるか分からないが、生物の回復に長時間を要するだろう。(石川妙子委員)	P97
	瀬替えの際には、魚類等にももう少し配慮してほしい。(高橋委員)	
施工後の 川への変化 の付け方	みお筋を直線的にせず川に変化をつけること。(石川妙子委員)	P95
	河川特性上、土砂が堆積しやすい箇所をうまく生かして、川に変化を付けると良い。(岡田委員)	P87～90、 P95
	河床材料が小さく均一、横断的にフラット、縦断的に瀬と淵が消失しているような、流れのバリエーションのない瀬では、アユは釣れない。(高橋委員)	P91～94
	船底形河道は、複断面の河道よりも漁業にプラスになる可能性があるが、もう少しミクロな情報がないと、今の段階では判断できない。(高橋委員)	P87～94
片地川流路 の保全	片地川の流路を残すことを考えるべき。(石川妙子委員)	P96
河川利用	これから整備する高水敷は、別に平らでなくてもいい。3～5%ぐらいの勾配は、かなり傾いて見えて、普通に川で遊ぶ行動にはほとんど問題ない。(重山委員)	P101～103
	低水護岸も、洪水時の流速が速い物部川の特徴を踏まえながら、遠賀川のような隠しの工夫が必要。(岡田委員)	P100
	低水護岸がどうなるか想像がつかない。(重山委員)	
	沈下橋など、対岸に気軽に渡れる施設を検討できないか。(重山委員)	P104～105